

みくびびだより

平成11年6月21日

御首神社社務所



御挨拶

謹啓 頼伝う風も爽やかな初夏の候、御首神社の杜も若く力強い深緑につつまれてまいりました。皆様方には愈々御健勝の事とお慶び申し上げます。

本年二月、天皇・皇后両陛下におかせられては御成婚四十年をお迎へになられ、哀心よりお慶びを申し上げる次第でございます。この間天災（伊勢湾台風・阪神淡路大震災）人災（地下鉄サリン事件）など様々な出来事がありました。但し、両陛下の慈愛溢れる国民への大御心と一旦緩急あれば即行動される御聖徳に感謝と敬愛の念を抱かざるを得ません。私どもはこの深い大御心に万分の1たりとも報い奉ることをお誓い致したいものです。

さて、毎年春が近づくと恒例の様に一部の非常識な教職員による国旗・国歌論議が起こり、今年も広島県の県立高校の校長が卒業式での国旗掲揚・国歌斉唱をめぐる教職員組合その他の団体から加えられた圧力に悩み、自殺されたという悲痛な事件が起き全国の心有る人々は嘸かし強い憤りを感じられた事でしょう。

この国旗・国歌論議を始め青少年の問題・社会秩序の喪失又領土問題・国防問題等も、その背後には皆戦後の占領政策と結び付いて失われたものです。新しい世紀を迎えるに当たり、今こそ我々は失われたものならば復活させようとの心意気を持ち、国民一人一人が「浦安の瑞穂の国」たる日本国とすべき運動を推進する必要があります。ましよう。

最後に皆様の御健勝と御多幸を祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

『神の存在』

大宇宙には我々の住んでいる地球を取りまく太陽系が無数に有ると云われています。

よく晴れた日の夜空に月や火星、金星など様々な美しい星の群を見つめていると、宇宙はとてつもなく広いものだと思ながら痛感させられます。

地球が出来てから約四十五億年といわれております。それならば宇宙の誕生は？となるとこれは気の遠くなるような天文学的な数字になるでしょう。

この広い宇宙は何者がどのようにしてつくったのか、長い長い年月をかけてつくられたか、又突然変異が起こり一瞬のうちに出来たのか、それとも神の創造なのか、色々と想像を巡らしても到底人間の考えの及ぶところではありません。ただ人間が直接造ったもので



ないことだけは確かであります。

そこでこの宇宙には一体「神」と云うものがあるのか、ないのかと問われると本当に返答に困ります。

人間の目で見ることの出来るものであればそれは誰でもすぐわかります。たとえ盲人であっても小さな物体であれば自分の手でさわれば確かめることができます。つまり物質（石とか木とか草花とか）は目で見て、手で触れてそれが実際に存在するということが分かります。

しかし神さまがあるかどうかとなると、神さまの姿が見えないだけにとんと説明に困るのです。

十八世紀、アメリカのペンジヤミン・フランクリンによって雷は電気であると云うことが証明されたが、電気は実際に目で見ることができない。視覚によって感知出来ないものは存在しないと云う理屈であれば、電気というものは存在しないことになりす。ところが電気は実際に存在して、世界中の人が活用し計り知れない恩恵を蒙っており、人類の発展に不可欠かつその恩恵に浴して余りあるエネルギー源であります。

世の中には神さまは見ることも出来ないし、手で触れることも出来ないからそんなものは存在しないという人もあります。人間は手とか足、舌、鼻、皮膚などの感覚によって物の存在を知るために、そういう感覚によって知ることが出来ないものは存在しないかのようには思い勝ちであります。確かに神さまは視覚とか触覚とか味覚とといった人間の感覚では捉えることが出来ないものであります。だからといって神さまが存在するとかしないとかと云う問題とは違うのであります。

例えば目の前に鉢植えの花があるとしよう。花は限球に映り視神経が脳に伝えて、そこで初めて花の存在を知るのです。

ところが一旦暗闇になるとその花は見えなくなる。見えないと人間には花があるともないとも分からない。人間にとっては存在しないのと同然であります。

僅かながらも何となく見えてくることもあり得ることです。

大体人間の感覚というものはあまりあてにならないものでありまして、熱い風呂に飛び込んだ瞬間に鳥肌がたち、寒ささえ感じることもあるし、電車が二両同じ方向に走っていてもお互いに走っていないかのような錯覚に陥ることもあります。

従って人間の感覚によって認識されるものは非常に範囲が狭いということであり、極端に大きいものや極端に小さいものは人間の感覚では捉えることができません。人間の耳で聞くことの出来るのは僅かな音域であって、その範囲を越す超音波とか超低音波などは聞くことができません。人間の耳で捉えられないからといってそれらが存在しないのだと考えるのは間違いであります。

ところが一般の人が超音波を捉えることができなくても、その音波を捉えることの出来る「うつわ」に成長すれば、或いは実現も可能になります。ですから神さまも目に見えないから存在しないと云う理屈は当てはまらないのです。

どんなに巨大な星でも地球から何百光年も距てて存在していると我々の目には蛍の光のようにしか見えないが、瞬いている星自体は蛍のように小さなものではないし、人間の目にどんなに映ろうがそんなことは一向に気にせず光り続けている。これは神さまについても同じことがいえるのです。人間が勝手に神さまがあるかないかなどと議論をしていますが、そのようなことに全く関係なく神さまは存在し続けているのです。

人間が朝起きてから一生懸命働いて夜床に着き、翌朝まで一瞬たりとも神さまのお守りは途絶えることがありません。

太陽の恵み、目に見えない空気の有り難さ、草木一本をとってみてもみな神さまの働きが現れております。その尊い神の働きにどれだけの人が気づいているのでしょうか。今や人類が地球を支配しているかのような錯覚に陥って勝手気ままに振る舞い、平気で自然を破壊するような人々に一言忠告を申し上げたい「人類は全て神によって生かされている」と。

禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

こんにちは社務所より一言御案内申し上げます。

ご参拝の折「神様のお供えはどのようなしたらよいか」と云う質問を受けることがよくあります。今回はご家庭での神棚のお供えについてご説明申し上げます。

神様へのお供えはご神饌といって神さまに召し上がって頂くお食事です。古くはミケ（御食）と云って神さまへの御供え物の総称であり

当社での例祭時のお供えは米・酒・餅・海魚・川魚・鳥・海菜・野菜・果物・菓子・塩・水などですが、平日は前述の品よりも簡素にしてお供えを致しております。又、神社によっては当地の特産物も併せて供えられることもあります。要するに神様には、人間の真心のこもった品々を厳選して献ることに意味がある訳です。

各ご家庭に於かれましても出産祝いや初節句、結婚や長寿の祝いなどの人生儀礼、或いはご先祖からゆかりのある日などは神社に準じてお供えをして頂き、月に一度は月次祭を執り行っていただいて米・酒・塩・水・海産物・山菜・野菜・果物など真心のこもった品物をお供え下さい。

尚、平日でも最低米・塩・水はお供え頂きましたら幸いです。

権禰宜 谷口哲也



祭事報告

▼年越大祓

▼元旦祭

十二月三十日午後三時
一月一日午前零時
新年を迎え皇室の弥栄と国家の隆昌、氏子崇敬者の繁栄と共に社会の平和を祈願し、引き続き諸祈願祈禱が執り行われました。

▼左義長

▼浄火祭

一月十五日午前十時
二月三日午前十時
今年の浄火祭は大寒波の襲来で粉雪の降りしきる中、宮司以下祭員と共に氏子区域内の厄年に当たる厄男（小藪一良・小藪友雄・柳瀬康・松永康裕）の四民そして氏子総代と一般参列者が、交通機関の大幅な乱れにもかかわらず多数ご参拝を頂きました。

浄火祭では、御祈禱を受けられた方がご前に献られた金幣串そして返納された紅白串また祈願奉納された帽子・絵馬を皆様の心願成就を願って厄男が心を込めて祈念いたし、忌み火で以ってお焚き上げをいたしました。

近年環境汚染問題に関心が高まっており、当社が神社界でもこれを重視しており、当神社の浄火祭をはじめ焼納感謝祈禱、また全国の各神社で行われる左義長などお焚き上げを執り行う際は、極力有害物質の発生を避けるよう努めておりますので、ビニール袋・プラスチック製品はお持ち帰りいただくなど、分別整理に皆様のご理解とご協力を頂きますようお願い致します。

▼祈年祭

▼御鞆神社例祭

▼例大祭

二月二十一日午後三時
三月十七日午後三時
四月二日午後三時
一年に一度の例大祭は、森 磐根岐阜県神社庁副庁長を献幣使としてお迎えし、神職令人あわせて十五名、総代役員と多数の崇敬者が参集し真心をこめてご奉仕いたし、厳粛に斎行されました。
例年ですと桜が咲き親い、のどかで麗らかな陽気の下で行われる例大祭ですが、今年はいにくの雨に見舞われ、少し肌寒い感じも致しましたが、その中でも子供達の元気な打ちはやしの音が境内に響き渡っていました。



▼南宮神社例祭

▼お田植え祭

▼農休み祭

権禰宜 馬場 典之

五月 四日午後三時
六月 七日午後三時
六月二十日午後三時

厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より「大厄は諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び、何かとままならぬことが多くなり、前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。御祈禱を受け毎日を平穩に過ごしましょう。

平成11年 厄年に当る生れ年				
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和34年	昭和33年	昭和32年
	25歳	昭和51年	昭和50年	昭和49年
女子	33歳	昭和43年	昭和42年	昭和41年
	19歳	昭和57年	昭和56年	昭和55年

旅行安全・交通安全

祈祷について

祈祷は、神明の加護を乞求めんとする行事で「イノリ」「ノミ」とも言われ平安時代後期頃より病氣平癒祈願を始め、厄祓い安産祈願等が執り行われるようになりました。

当時は生活も豊かではなく疫病等も流行し衣食住に於いても今では想像もつかないような暮らしをしていたのではないだろうか。

現代では当時に比べ生活様式も変わり、祈願の内容も商売繁盛・学業向上・交通安全など複雑に変化してまいりました。



★交通安全祈祷

交通安全祈祷は、二輪車・自動車等の安全走行と歩行者の安全を祈願するもので、一般的に新しく車を買った時、事故等災いを受けた時又、新年を迎え一年間の無事故を祈願し参拝される方が大半です。

事故や災いは、一人一人の慣れやおごり・油断・不注意・交通違反等から発生する事がほとんどだと思います。

しかし個人個人がいくら注意をしても防ぎきれない事故もあります。皆様方の大切な身体や家庭を守って頂き、身も心も清々しく家庭円満で楽しく暮らすためにも、一年一度は交通安全祈祷をお受け頂きますようお願い致します。

★旅行交通安全祈祷

旅行交通安全祈祷はスキー・キャンプ・海水浴・国内旅行・海外旅行などで、その行く先々に於いてバス・船舶・電車・飛行機など公共交通機関を利用する際には不慣れな点もあり、思わぬ事故を招く恐れがありますのでその事前に安全を祈願するものです。

特に海外旅行は故郷を離れて不安も重なり精神的・体力的にも変調をきたし、病気になることも予想されます。

皆様方がこのような旅行に出かけられる前には「みくび」の大神さまのご守護の下に、清々しい気持ちで無事に旅行を終えて頂くよう是非ご祈祷をお受け下さい。

権禰宜 高田 豊彦

崇敬会入会のご案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ます。御参拝の折、社務所にてお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ、会員証・認定状等が交付されます。

会費（年会費）

- 一、個人会員 三千円以上お志し
- 一、家族会員 五千円以上お志し
- 一、特別会員 一万円以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、御祈祷神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、軟の崇敬会大祭には御案内申し上げ、参拝の方々には大祭特別祈祷神符及び御供物等が授与されます。
- 一、夏越大祓、年越大祓には御案内申し上げます。
- 一、夏越大祓、年越大祓には御案内申し上げます。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員の方は昇殿参拝が許されます。

祭事案内

- ▼西宮神社例祭 七月十七日午後三時
- ▼末広稻荷神社例祭 八月 八日午後三時
- ▼夏越大祓 八月 八日午後三時半
- 夏越大祓は古くから「水無月のなごしの祓いする人はちとせの命延ぶといふなり」といわれているように、半年の間に日常生活を通して、知らず知らずのうちに我が身が受け犯している罪・穢を人形（ひとがた）に移し、息を吹きかける事によって災厄を逃れ、健康と幸福を得むとするものです。
- 祓所には忌火、人形（ひとがた） 祓物などを設置し、大祓詞奏上の後、祓いの儀式が厳かに執り行われます。
- 引き続き茅の輪くぐりの神事を行う事によってより一層身を清められ、半年間を健康に無事過ごせますようお祓いを受けて頂きます
- 又、茅の輪くぐりの神事は夕方五時頃まで行っておりまして是非ご参加下さい。
- 尚、人形は社頭に用意して御座いますのでご自由にお持ち下さい。不足の場合は半紙等で作成して頂いた人形も受け付け致しますので、七月二十日までに住所・氏名を明記の上郵送或いは社務所までご持参下さい。
- ▼長寿祈願祭 九月十五日 午後三時
- ▼神明神社例祭 十月十七日 午後三時
- ▼七五三参り 十一月一日 ～ 三十日
- ▼崇敬会大祭 十一月三日 午後二時



御首神社崇敬会大祭は御首の大神様のご守護をいただき、ご家族の無病息災・家内安全・生業繁盛並びに子孫の繁栄を祈願申し上げます。年に一度の大祭です。

当日ご参列された会員の皆様には本殿に上がって頂き、一人一人のお名前を大神様の大前にてご報告し、皆様の諸祈願の成就を祈念申し上げます。

最後にご神符が授与され、お名前を書かれた金幣を奉って頂きますので多数ご参拝頂きますようお願いいたします。

- ▼新嘗祭 十一月二十三日 午後三時
- 権禰宜 谷口 哲也

末廣稻荷神社

御鎮座五十年記念事業のお願い

当神社本殿の東にお祀りされています末廣稻荷神社は、昭和二十六年にご鎮座になり、来る平成十二年には五十年目を迎えることとなります。稲荷神社は昭和六十二年に御首神社の本殿ご造営の時には、工事の対象外でありました。しかし長年の間風雪に晒され老朽化も進み、特に平成十年九月に二度の台風の被害を被り、惨憺たる状況下で応急対策は施してありますが、早急に修復の工事が必要となつてまいりました。

つきましてはこの節目の佳き年に鳥居・灯笼等を新調いたし、御神域の整備を行いたいと存じますので、何卒この趣旨をご理解頂きご奉賛賜りますようお願い申し上げます。

事業の概算

総額 壹千五百万円

- 一、ご神域の整備
- 一、本殿廻りの塀の改修
- 一、鳥居・灯笼の新設

工事完成予定

平成 十 二 年 七 月

尚、奉賛金の申し込みは御首神社社務所で受け付けいたしておりますので宜しくお願ひ申しあげます。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇